



## さあ、答え合わせをしよう！

Vol.83 お宝ベスト5～秋田県(あきたけん)

※ココを見てね! ▶秋田県～「お宝ベスト5」

1. 北海道(ほっかいどう)産の緑色(みどりいろ)の石を使い、「擦切技法(すりきりぎほう)」という技術(ぎじゅつ)で作られた磨製石斧(ませいせきふ)が見つかった遺跡(いせき)はどこかな？

正解:②上埴遺跡(うわはばいせき)

「石斧(せきふ)」は、文字どおり、木を切る斧(おの)として使用(しよう)されたと考えられる石器(せっき)です。秋田県(あきたけん)の南東端(なんとうぶ)、栗駒国立公園(くりこまこくいていこうえん)を擁(よう)する奥羽山脈(おおうさんみゃく)の麓(ふもと)で、縄文時代前期(じょうもんじだいぜんき)のムラの跡(あと)がみつかりました。この遺跡(いせき)からは長さ35～60cmのとても大きな磨製石斧(ませいせきふ)が4本みつかりました。400kmも離(はな)れた北海道(ほっかいどう)でしかとれないアオトラ石を使っていることから、何かの儀式(ぎしき)に使われた、特別な石斧(いしおの)だと考えられています。正解は、②上埴遺跡(うわはばいせき)でした。

1. 地蔵田遺跡(じぞうでんいせき)から出土した大型壺(おおがたつぼ)は、子どもの棺(ひつぎ)だと考えられています。ほかの地域でも同じような大型壺がみつかりました。さて、それは次のうちどこかな？

正解:①北海道(ほっかいどう)

「お宝ベスト5」4つ目に、写真付きで紹介(しょうかい)されていますね。正解は、①北海道(ほっかいどう)です。ちなみに、九州地方(きゅうしゅうちほう)には「甕棺(かめかん)」とよばれる子どもの棺(ひつぎ)がありますが、こちらは1つの甕(かめ)に土器(どき)などをかぶせたり、2つの甕(かめ)を開口部(かいこうぶ)で合わせたりして蓋(ふた)をします。近畿地方(きんきちほう)ほか、全国的には土器棺(どきかん)が多かったようです。

※「調べてみよう～生活文化「墓(はか)」のも読んでみてね!

3. 「米ヶ森技法(よねがもりぎほう)」で作られたものは、なにかな？

正解:①石器(せっき)

答えは、①石器(せっき)です。石器(せっき)は、人間が作った道具(どうぐ)で、材料(ざいりょう)として、岩石(がんせき)や鉱物(こうぶつ)といった石が使われますが、その作り方は大きく2種類あります。1つは、石と石とを打ちつけたり、道具(どうぐ)を使って打(う)ち叩(たた)いたりすることで石の剥片(はくへん)をはぎ、形を整(ととの)える方法(ほうほう)で、こうしてできたものを打製石器(だせいせっき)といいます。もう1つは、石を磨(みが)き上げて形を整(ととの)える方法で、こちらを磨製石器(ませいせっき)とよびます。打製石器(だせいせっき)では、その技術(ぎじゅつ)に地域(ちいき)に個性(こせい)がみられます。「米ヶ森技法(よねがもりぎほう)」は、石を刺身(さしみ)のように連続(れんぞく)して剥(は)ぎ取(と)る技法(ぎほう)で、東北地方(とうほくちほう)ほか、日本列島(れっとう)の日本海側(にほんかいがわ)を中心にひろがりました。